

# 第 3 章

## TOEICに英文和訳は 存在しない

### ■ *Introduction*

この章では、TOEICや英検などの試験問題に広く見られる四択問題ふうの例題を解きながら「英英辞典って役に立ちそうだ」と実感していただければと思います。

### 「いつもの調子で」試験に臨めるように

大学入試の共通テストや5級から1級まである英検、留学資格の基準となる TOEFL® テストや、職場での昇進まで左右する TOEIC Listening & Reading など、世の中にはさまざまな英語テストがあります。

基本的に四択問題。問いも答え（四択文）も、すべて英語で書かれています。

英文和訳はありません。和文英訳もありません。

**英語を英語で言い換える能力が問われる試験なのです。**

江戸時代の蘭学にはじまり明治維新を経て日本人は倦<sup>(?)</sup>まずたゆまず外国語と格闘してきたわけですが、その基本は「和訳」作業でした。**和訳だから英和辞典を使ってきた**。そして、日本の英和辞典はみごとに進化をとげた。出版社の競争もはげしく、日本の優れた学習英和辞典は文法書も兼務した優れものです。

辞書マニアのわたし、諸外国の辞書を手にしてきたので断言できますが、英仏、英独、英露、英中、英韓など、世界のあらゆる2言語辞典のなかで、日本の英和辞典ほどサービス精神にあふれたものはありません。

しかし、です。共通テストも英検も TOEFL も TOEIC も英語オンリーの世界です。英文和訳は無いのです。それなのに、英単語の和訳のしかたを示す英和辞典だけ使っていて、それでいいのでしょうか。

**英語を英語で言い換える力が問われるテストに立ち向かうには、当然ながら「英語を英語で言い換えてある」英英辞典も使いなれておくのがいちばんです。**

※ TOEFL is a registered trademark of ETS. This publication is not endorsed or approved by ETS.

とくに TOEFL と TOEIC は、英英辞典を使い慣れずに受験するなんて無謀の極みです。

わたしが TOEFL・TOEIC にトライしたとき、まず感じたのは、「**日頃から英英辞典を使っていてよかった！いつもの調子で英語を英語で言い換えて考えればいいんだよな**」。膨大な量の英語に短時間で立ち向かうテストですが、ストレスを感じることなく、それなりのスコアが取れました。

### 「ワンちゃん」聴き取りテスト

英語オンリーの四択問題って、どういう仕組みでしょうか。

「たとえ話」と思って、こんな問題に取り組んでみてください。リスニング問題とお考えください。

Jáne's had a cùte dóg at hòme for thrée yéars.

**Q 1.**

Whát does Jàne háve?

- (A) A cát
- (B) A cútter
- (C) A dóg
- (D) A líon

かりに文字づらを見てよければ、英語能力ゼロでも解ける。もちろん正解は (C) です。

同じ単語を探し出せば正解! という地獄に仏のような出題。TOEIC にも1問から2問くらい、こういうチョー単純な問題があるものです。

しかし、ふつうは、もっとひねりがはあります。どう「ひねる」のでしょうか。

Jáne's had a cùte dóg at hòme for thrée yéars.

**Q 2.**

Whát does Jàne háve in her hóme nòw?

- (A) She has a dóg and thrée cáts.
- (B) She has a tròpical plánt.
- (C) She has a pèt ánimál.
- (D) She has an ùgly dóg.

いかがでしょうか。a cute dog が a pet animal に言い換えられています。

(D) の an ugly dog は、ひっかけです。(C) の言い換え表現に気づかず、かつ ugly の意味を知らない学習者をひっかけするためのもの。

(A) も、リスニング問題にありそうな、ひっかけです。dog と three だけ辛うじて聞き取れたというひとが、a dog + three cats にひっかかる仕掛け。

英和辞典の感覚で、つまり「いちいち日本語に置き換えながら」英文を読むひとにとって、a cute dog が a pet animal に置き換えられる世界というのは、けっこう敷居が高い。

a cute dog = かわいい犬、a pet animal = ペットの動物。

たしかに日本語の世界でも犬は動物だし、かわいいからペットなわけで、脳内が100パーセント「英和」辞典でも正解は出せるでしょう。

しかし、日本語で「動物」といえば、動物園の動物を連想したり、NHKの『ダーウィンが来た!』に出てくるような動物を思い浮かべ

てしまう。げんに Google で日本語単語の「動物」を画像検索してみると、まず登場するのがレッサーパンダ、キツネ、サル、キリン、ライオン、ゾウ、コアラ……。犬や猫はなかなか出てこない。

街なかで犬の散歩をしているひとを見て「あ、あのひと、動物を散歩させているよ」と考えることは、まずない。猫がギャーギャー騒いでいるときに「動物たちがうるさいなあ」と考えることもないでしょう。それらはいくまで「犬」であり「猫」なのです。

犬が「動物」のひとつであることは幼稚園児でも知っています。しかし、日常的には犬を指して「動物だ」とは言わないわけですね。

この日本語感覚が邪魔をします。TOEFL も TOEIC も時間との闘いです。「英和」の感覚で英語に向き合ってしまうと、「かわいい犬」と「ペットである動物」を結びつけるのに心理的な抵抗を感じて、余分な時間がかかってしまう。

ところが、日頃から英英辞典の世界に慣れていれば、「a dog は an animal だよ」という言い換えがほとんど無意識のうちにできてしまうわけです。

dog のことを英英辞典がどう説明しているか、見てみましょう。いずれもオックスフォードの英英です。

**dog:**

- an ánimál that màny pèople kèep as a pèt or to guàrd buildings (*Oxford Basic American Dictionary for learners of English*)
- a fòur-lègged ánimál that bárks, óften képt as a pèt (*Oxford Primary Dictionary*)
- an ánimál with fòur légs and a táil, óften képt as a pèt or tráined for wòrk, for exàmples húnting or guàrding buildings (*Oxford Advanced Learner's Dictionary*)